

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和6年度11月号

○ 概要

- (1) 令和6年度11月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,901億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+2.2%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,140円（伸び率▲0.5%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,961億円（伸び率+5.1%）、薬剤料が4,926億円（伸び率+1.1%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,005億円（伸び率+4.6%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,061円（伸び率▲2.5%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.85種類（伸び率+1.6%）、26.5日（伸び率+0.1%）、67円（伸び率▲4.1%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料3,821億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+7億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の742億円（伸び幅+16億円）で、伸び幅が最も高かったのは52 漢方製剤の+32億円（総額161億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,821 億円 (+7 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(742 億円)	21 循環器官用薬 (538 億円)	11 中枢神経系用薬 (521 億円)
0 歳以上 5 歳未満	21.0 億円 (▲0.3 億円)	44 アレルギー用薬 (6.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.4 億円)	61 抗生物質製剤 (3.6 億円)
5 歳以上 15 歳未満	108.2 億円 (▲0.4 億円)	44 アレルギー用薬 (34.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (27.9 億円)	61 抗生物質製剤 (9.5 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,449 億円 (+22 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(281 億円)	11 中枢神経系用薬 (273 億円)	42 腫瘍用薬 (167 億円)
65 歳以上 75 歳未満	767 億円 (▲43 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(180 億円)	42 腫瘍用薬 (134 億円)	21 循環器官用薬 (123 億円)
75 歳以上	1,476 億円 (+29 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(273 億円)	21 循環器官用薬 (248 億円)	42 腫瘍用薬 (199 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,140円（伸び率▲0.5%）で、最も高かったのは高知県（10,936円（伸び率▲0.1%））、最も低かったのは佐賀県（8,089円（伸び率+2.8%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福井県（伸び率+3.0%）、最も低かったのは茨城県（伸び率▲2.2%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	90.6 %	+5.6 %
薬剤料ベース	20.4 %	+0.7 %
後発品調剤率	83.5 %	+2.1 %
（参考）数量ベース（旧指標）	62.3 %	+2.0 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔（後発医薬品のある先発医薬品の数量） + 〔後発医薬品の数量〕〕 で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.6 %	+28.8 % (10 歳以上 15 歳未満)	▲5.6 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.4 %	30.9 % (100 歳以上)	14.5 % (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	90.6 %	93.1 % (0 歳以上 5 歳未満)	89.3 % (80 歳以上 85 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	845 億円 (+28 億円)	21 循環器官用薬 (255 億円)	11 中枢神経系用薬 (151 億円)	23 消化器官用薬 (99 億円)
0 歳以上 5 歳未満	8.7 億円 (+1.0 億円)	44 アレルギー用薬 (4.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)	62 化学療法剤 (0.6 億円)
5 歳以上 15 歳未満	24.3 億円 (+4.7 億円)	44 アレルギー用薬 (13.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	303 億円 (+15 億円)	21 循環器官用薬 (72 億円)	11 中枢神経系用薬 (71 億円)	44 アレルギー用薬 (35 億円)
65 歳以上 75 歳未満	165 億円 (▲7 億円)	21 循環器官用薬 (63 億円)	11 中枢神経系用薬 (22 億円)	23 消化器官用薬 (20 億円)
75 歳以上	345 億円 (+14 億円)	21 循環器官用薬 (120 億円)	11 中枢神経系用薬 (56 億円)	23 消化器官用薬 (50 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,331 円	1,731 円(北海道)	1,150 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+1.8%	+8.2 %(徳島県)	▲0.6 %(富山県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	90.6 %	94.3 %(沖縄県)	88.0 %(徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.4 %	22.7 %(山形県)	18.3 %(京都府)
後発医薬品調剤率	83.5 %	86.6 %(福島県)	80.5 %(東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	62.3 %	66.8 %(沖縄県)	59.4 %(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和6年度11月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。